

平成 28 年 度地域の文化・芸術活動助成事業 連携プログラム事業

宮沢賢治生誕 120 年記念 4 館共同制作

小池博史ブリッジプロジェクト

「風の又三郎 2016-ODYSSEY OF WIND-」
&
地域創作プログラム [KENJI]

プレスリリース



公益財団法人仙台市市民文化事業団（日立システムズホール仙台(仙台市青年文化センター)）

〒981-0904 宮城県仙台市青葉区旭ヶ丘 3 丁目 27-5 TEL：022-301-7405 FAX：022-727-1874

公益財団法人多摩市文化振興財団（パルテノン多摩）

〒206-0033 東京都多摩市落合 2-35 TEL：042-375-1414 FAX：042-376-9191

一般財団法人長野市文化芸術振興財団（長野市芸術館）

〒380-8512 長野県長野市大字鶴賀緑町 1613 TEL：026-219-3100 FAX：026-219-3110

株式会社地域文化創造（茅野市民館）

〒391-0002 長野県茅野市塚原一丁目 1 番 1 号 TEL：0266-82-8222 FAX：0266-82-8223

制作協力：小池博史ブリッジプロジェクト／株式会社サイ 助成：一般財団法人地域創造

＜小池博史ブリッジプロジェクトとは＞



“小池博史ブリッジプロジェクト”は2012年5月、30年の活動に終止符を打った舞台芸術カンパニー、パパ・タラフマラの演出家小池博史がこれまでの舞台芸術作品の創作はもちろん、映像・写真・インスタレーション・文章などあらゆるメディアを活用した多角的な発信を行ない、世界との架け橋を創ることを目的に設立された。イベント・講演会・ワークショップ・教育プログラムの実施など、“からだを使って考える”事の出来る人材の育成や、地域と地域、人と人とを繋ぎ合わせる活動も積極的に行う。

今、日本は世界を精神面においてリードすべき時代に入ったと考えなければならない。一般的な人々にとって、芸術や文化は自分たちには関係の薄いモノと考えがちであり、日常の中では、即物的な分かりやすさばかりを追い求め、文化的深みに気付くことができる人々は多くはないのが現状だが、文化こそが人間の根幹を作る。今こそ、人間の根源性を見つめ直す必要があり、それをフィードバックする必要がある。‘現在’や‘日本人’というポイントだけに目を向けるのではなく、‘歴史’、‘人類’さらには‘動物全般’、‘生命そのもの’にまで目を向けてこそ、これからの私たちが生き延びることができる資格を得られるはずだと考える。本プロジェクトは、このような視点からの活動となる。

＜企画意図＞

「小池博史ブリッジプロジェクト」が進める宮沢賢治シリーズの第三弾であり、最後の宮沢賢治童話をモチーフにした作品。「動物と人間」の關係に焦点をあてた「注文の多い料理店」、「死者と生者」という視点から創り上げた「銀河鉄道」に続き、創作された。

「かぜのまたさぶろう」にはふたつのバージョンがある。又三郎という名の転校生の、一般によく知られた物語が「風の又三郎」。もうひとつは風の精としての又三郎をモチーフとした「風野又三郎」だ。文字通り風と野の又三郎が描かれている。「小池博史ブリッジプロジェクト」版「風の又三郎」では、小学校を舞台に繰り広げられるユーモア溢れた「風の又三郎」と、野原、野生、野獣…と言った原初的なエネルギー体に繋がる「風野又三郎」の、双方の世界観を描きつつ、人間とはなにか？ヒトはどこから来てどこへ行くのか？という根源性を強く訴える作品である。つまり大地と風の力をきちんと受け止めて生きる人こそ、野のなかではじめて未来を見ることができるのだ、という宮沢賢治と小池博史の発する強いメッセージが見る者の心を射抜く。



↑ 第一弾「注文の多い料理店」



↑ 第二弾「銀河鉄道」



↑ 第三弾「風の又三郎」

＜「風の又三郎」再演にむけて＞

再び「風の又三郎」のツアーが始まる。

前もってひとつだけ伝えておきたい。

今、僕たちが失ってきたものは計り知れないほど大きくなり、なにを失ったかさえ見えなくなった。特に大きく失われたのは私たち自身の身体であるが、なんのことを言っているか認識できない人がとても多い現実がある。身体は実体として存在するからだ。しかしど

こまで感じ取れる身体を保持し得ているかとなるとかなり怪しい。自分の身体ですら、自分が感じ取っているというより情報によって感じ取った気になっているとしたら……恐いなんてもんじゃない。でもそれが実際に急速に進行して来た。僕たちは「これはなにか？」という視点でしか判断できなくなってきつつある。「なにを感じたか？」ではなく「これはなにか？」……人間には分析する前に、一瞬にして判断できる能力が備わっていたはずが、それが機能しない動物的能力の欠如した身体になりつつある。

「風の又三郎」は自然そのものを描いている。舞台上で自然を描くのはどういうことか、と少しでも感じ、面白いかもと思ってもらえたならば、まだ身体感覚が残っている可能性がある。これからの時代は、感じ取れる身体を持たなければ生きていけない。情報が溢れかえり、怪しい食がそこら中にあり、政治は虚飾まみれ……こんななかで生きるにはなんと言っても鋭敏な感覚を持たなければ、ただただ流されるだけになる。

「風の又三郎」はそんな思いを強く持ちながら制作し、また新たな展開を試みる。ただの焼き直しではない。今回のツアーは地域創造の助成を受けての四館が連携してのプログラムとなり、公演ツアーだけではなく、ワークショップやさまざまなイベントが付随する。舞台はきわめてダイレクトに人の心と身体に響くが、実際に見るだけではなく体感する経験が加わればきわめて強い感覚的体験となって身体に残る。

ともかく、これが未来に向かってのひとつの矢印となって皆さんの心に残るなら最高に嬉しい。まずは体感あれ。



小池博史

＜4 館共同制作・代表館 仙台市市民文化事業団からのメッセージ＞

小池博史ブリッジプロジェクト『風の又三郎 2016 -ODYSSEY OF WIND-』 上演によせて

あの日の東日本大震災によって、仙台でも劇場などの文化施設が軒並み機能停止となりました。その復旧に明け暮れていた頃に、小池博史氏から「今回の震災を受け、パパ・タラフマラを解散することにした」というお電話をいただきました。

ダンス・音楽・演劇・美術・映像など、さまざまな表現があたりまえのように共存する「パパ・タラフマラ」の、30年あまりの活動期間に生まれた一連の作品は、古典芸能にも通じる「根源性」や「総合性」に溢れ、その間口の広さ、包容力が特色でした。洗練され、一方で極めてプリミティブでもある小池作品を、あらためて現代舞台芸術の「王道」と捉え直し、そのちからを東北の心の復興の触媒にできないか——そんな可能性を念頭に置き、被災地の状況を少しずつお伝えする中で、相互連絡の頻度は徐々に増えていきました。

まもなくスタートした「小池博史 meets 宮沢賢治シリーズ」は、仙台においても2014年2月の4館連携による『銀河鉄道』、2016年2月の『注文の多い料理店』と二回の上演&ワークショップが続き、三度目の今回は文化庁・一般財団法人地域創造のご支援、各連携館のお力添えにより、『風の又三郎』仙台バージョンの4都市公演が実現しました。鑑賞だけでなく創造体験を通して現代舞台芸術に対する市民理解が深まることを意識し、市民参加により各都市協働で取り組む創作プログラム『KENJI』とともに、宮沢賢治の遺した芸術・思想を基軸に、私たちの現在と未来を捉え直す有効な時間としていきたいと考えます。

公益財団法人仙台市市民文化事業団

＜『風の又三郎 2016 -ODYSSEY OF WIND-』4 館ツアー実施時期＞

◆2016年10月18日(火) ※プレス向けプレビュー公演

日立システムズホール仙台 シアターホール

お問合せ：仙台市市民文化事業団 事業課事業企画係 022-301-7405

◆2016年10月22日(土)17:00開演・23日(日)14:00開演

長野市芸術館アクトスペース

料金：（全席自由）一般3,500円 高校生以下1,500円 発売日：Nチケ会員7/28、一般：7/30

お問合せ：N C A Cチケットセンター 026-219-3191

◆2016年10月29日(土) 14:00開演（13:30開場）

パルテノン多摩小ホール

料金：一般3,500円 アテナ3,000円 高校生以下2,000円 発売日：一般7/24 アテナ7/16

お問合せ：チケットパルテノン 042-376-8181

◆2016年11月1日(火)・2日(水) ※1日は市内小学4年生対象のプレビュー公演

茅野市民館マルチホール

料金：おとな2,000円 こども1,000円 おやこ2,500円

お問合せ：茅野市民館 0266-82-8222

◆2016年11月6日(日) 14:00開演

日立システムズホール仙台 シアターホール

料金：一般3,500円 学生1,500円 中学生以下500円 発売日：一般8/1 予定

お問合せ：仙台市市民文化事業団 事業課事業企画係 022-301-7405

＜なぜ今、宮沢賢治作品なのか？＞



宮沢賢治は、根底には強い仏教思想と輪廻思想があった。西洋的合理主義型思想によるシステム自体が崩壊しかかっているのは歴史的必然であるが、その受け皿として、東洋思想が注目されてきた。その最も日本的と言ってもいい叡智は、宮沢賢治の童話に集約されていると言って過言ではないだろう。

宮沢賢治は自然について深く考察しつつ、童話や詩を書いた人物として知られている。また、きわめて優れた先見性に満ちた洞察があったがゆえに、同時代からは敬遠されて、有名にはなれなかった。だが、今、宮沢賢治を取り上げるのは、3.11後の必然である。なぜなら、今、私たちに問われているのは、新しい叡智の世界を築くことであり、それは自然の前で謙虚であれ、という宮沢の思想と共振する部分が多々あるからである。

＜なぜ古典のアーティストたちと作品創作を行うのか？＞

第一回作品「注文の多い料理店」では、バリ舞踊家の小谷野哲郎と尺八奏者の中村明一が参加し、第二回作品「銀河鉄道」では、能楽師の津村禮次郎を始めとして、和太鼓奏者のヒダノ修一等が参加。本作品では能楽師の清水寛二、中村明一らが参加する。「【小池博史 meets 宮沢賢治—三カ年計画】」では、国内外の古典アーティストたちとともに制作することを企図している。なぜならば、真の古典のアーティストは時間を跨ぐ意識を持っていると感じるからである。未来と現在と過去を同時に見る。これが古典アーティストたちに課せられた使命と私は思う。そして今、絶対に欠かせないのは未来からの視点であろう。多くが「現在」に足下を掬われているが、「現在」に絡め取られている限り、刹那主義から抜けることができない。古典アーティストを入れることで、圧倒する時間軸を作り上げる。それは未来・現在・過去を等価に見る軸である。そこにコンテンポラリーのアーティストたちを入れることで、視野の広がりを得ようとしている。さまざまな異界を表すために映像も用いる。



<原作・宮沢賢治著「風の又三郎」あらすじ>

ある風の強い日にやってきた転校生の三郎は、風のようないたずらをする不思議な子であった。ある日、地元の子どもたちと三郎が馬で高原へ遊びにいった際、馬が逃げ出しそれを追った嘉助は、深い霧の中で昏倒しながらガラスのマントを着て空を飛ぶ三郎を見る。その後、すぐに転校した三郎を、子供たちはその地で伝承される風の神の子“風の又三郎”であったというのだった。

村の子供たちの心象風景を現実と幻想の交錯として描いた物語。

<参照「風野又三郎」>

主人公である風の精、又三郎が様々な大地や海を駆け抜ける物語を村の子供たちに語りかける。そこには自然と人間の密接な関係が描かれている。風の精の長であるヘルマン大佐や、又三郎の兄弟が登場し、低気圧（サイクルホール）、海風、陸風、暴風など様々な風が、地球全体を循環する物語が語られる。

本作と大正年中に書かれていたいくつかの村童スケッチ「種山ヶ原」、「さいかち淵」などが挿話として取り入れられ、より現実的な物語へと改編されたものが「風の又三郎」として賢治が没翌年（1934 年）に発表された。

<小池博史ブリッジプロジェクト「風の又三郎-0dyssey of Wind-」について>

本作は、「風の又三郎」「風野又三郎」を原作としつつ、小池博史が、又三郎や風の精たちを通して自然と人との関係を描き、東日本大震災と福島第一原発事故のあった「3・11」後の世界を見つめ直す作品として再構築した。

小池は「これまでの社会は見えないものを切り捨ててきた。見えない風を舞台上で可視化することで、何が見えてくるのか、頭で考えるのではなく“感じて”ほしい」と話す。



＜スタッフ＞

作・演出・振付 小池博史

音楽 中村明一 菅谷昌弘 下町兄弟

美術 鈴木康広

衣装 浜井弘治

照明 上川真由美

舞台監督 中原和樹 吉田誠

制作 山内祥子 大木翔吾 伊原草太 市川喜愛瑠 栗津梨恵

※加えてキャストオーディションや仙台での合わせ稽古から、仙台スタッフが参加する。

＜キャスト・振付＞

清水寛二（能楽師・鍬仙会） 松島誠 小谷野哲郎 谷口界 松縄遥 他

※「泣き虫嘉助役」について仙台にてオーディションを行う。新キャストを迎え、演出家、キャスト、音楽家、スタッフが仙台に滞在して、新演出を加え滞在稽古を行い仙台版「風の又三郎 2016-ODYSSEY OF WIND-」を制作する。

＜演奏＞

尺八 中村明一

パーカッション 下町兄弟

『風の又三郎』これまでの公演歴

2014 年 10 月 4 日 流山市文化会館 主催：流山文化のまちづくり実行委員会

2014 年 10 月 8 日～13 日 吉祥寺シアター

主催：株式会社サイ 提携：（公財）武蔵野文化事業団

助成：文化庁文化芸術振興費補助金（トップレベルの舞台芸術創造事業）

平成 26 年度（第 69 回）文化庁芸術祭参加公演

＜主なキャスト・スタッフプロフィール＞



小池博史（作・演出）

茨城県日立市生まれ。元パパ・タラフマラ芸術監督。演出家・作家・振付家・舞台美術家・写真家、舞台芸術の学校（P.A.I.）学長。TVディレクターを経て1982年パフォーミングアーツグループ『パパ・タラフマラ』を設立。以降、全55作品の作・演出・振付を手掛ける。パパ・タラフマラ以外での演出作品も多数。演劇・舞踊・美術等のジャンルを超えた、強くオリジナリティ溢れる作品群は、35ヶ国で上演され、国際的に高い評価を確立。各国アーティストとの作品製作やプロデュース作品の製作、世界各地からの演出依頼公演、プロ対象・市民対象のワークショップを数多く実施。97~04年つくば舞台芸術監督、アジア舞台芸術家フォーラム委員長、国際交流基金特定寄附金審議委員（05年~11年）等さまざまな審議員、審査員等を歴任。2012年3月パパ・タラフマラ解散後、「小池博史ブリッジプロジェクト」を立ち上げる。



清水寛二（能楽師）

1953年1月11日、奈良県生まれ。東京都立富士高等学校卒業。早稲田大学教育学部入学、早稲田大学観世会にて山本順之師の指導を受ける。1976年早稲田大学教育学部卒業。在学中の1975年に鏡仙会に入門し、故観世寿夫師、故八世観世鏡之丞師、九世観世鏡之丞に師事、能のシテ方としての修行を始める。1980年に独立し、同年〈田村〉で初シテ。現在は鏡仙会の中堅筆頭格として活躍。世阿弥座などの海外公演にも多数参加。1986年より能によって「地」を照らす試みを行う場として「地照舎」を主宰、大和の神々をシテとする〈三輪〉などを取り上げ、ユニークな企画演能を続ける。1991年西村高夫と「響の会」を結成、同年第1回本公演で〈道成寺〉を抜く。



松島誠（パフォーマー）

1963年静岡県浜松市生まれ。日本大学芸術学部卒。1983年在学中よりパパ・タラフマラに参加。06年迄ほとんどの作品に出演、舞台美術も手がける。06年より演出家、振付家として活動を開始。パパ・タラフマラ在籍23年の経験を生かし、年齢からは想像できない瞬発力としなやかさをあわせもった身体表現、ボイス、演劇的表現、舞台空間演出が混ざり、類を見ないパフォーマンスを展開。東京での単独公演から、香港、マカオ、台湾、広東、ベルリン、アムステルダム、NY、等でソロ、デュオ、トリオ、コラボレーションなどで招待を受け、数多くの作品を発表。特に香港では2000年から4年間毎年滞在し数多くのコラボレーションを実現、現在香港で最も知られた日本人コンテンポラリーダンサー・パフォーマーであると言われている。2010年韓国国立大学客員教授の傍ら、ソロ公演、若手ダンサー、NYからのレジデンシーアーティストらとのコラボレーション実施。



小谷野哲郎（パフォーマー）

東海大学音楽学課程在学中よりサウンドスケープ研究の傍らバリ舞踊を始める。1995年よりインドネシア政府給費留学生としてインドネシア国立芸術高等学院に留学。現代バリ舞踊界最高の舞踊家達に師事し、舞踊技術と同時に精神的哲学的影響も強く受ける。パパ・タラフマラ作品では「ガリバー&スウィフト」「パンク・ドンキホーテ」「白雪姫」に出演。小池博史ブリッジプロジェクト第一作目となる「注文の多い料理店」に出演。



谷口界（パフォーマー、大道芸人）

1987年生まれ。20歳より独学で大道芸を始める。2010年大阪エンタフェスパフォーマーライセンス取得。その後、沢入国際サーカス学校に入学。2年間逆立ち芸を中心にアクロバット、ジャグリング等を学ぶ。コンテンポラリーダンス、舞台に興味を持ち、「舞台芸術の学校」に入学。2012年少人数サーカス集団「イル・スペオピーレ」の立ち上げにパフォーマーとして参加、翌年東京都ヘブンアーティストパフォーマーライセンス取得。個人でもプロの大道芸人として、東京を中心に全国各地で活動中。



中村明一（尺八演奏）

NHK邦楽技能者育成会卒業。米国バークリー音楽大学にて学び、最優等賞で卒業。米国ニューイングランド音楽院大学院修士課程で奨学生として学ぶ。自ら開発した方法による循環呼吸を自在に操る尺八奏者。ロック、ジャズ、現代音楽、即興演奏、コラボレーション等に幅広く活躍。外務省・国際交流基金の派遣などにより、クイーンエリザベスホール（ロンドン）、ブルーノート（ニューヨーク）など、世界30カ国余で公演。世界40局余の放送局に出演。文化庁芸術祭レコード部門優秀賞、コロムビア・ゴールドディスク賞、松尾芸能賞、平成文化庁舞台芸術創作奨励賞など受賞暦多数。洗足学園音楽大学大学院、桐朋学園芸術短期大学講師。日本現代音楽協会会員。



鈴木 康広（アーティスト）

1979年静岡県浜松市生まれ。2001年東京造形大学デザイン学科卒業。2001年NHKデジタル・スタジアムにて最優秀賞を受賞。オーストリア・リンツ／アルスエレクトロニカ・フェスティバルへの出品をきっかけに国内外の多数の展覧会やアートフェスティバルに招待出品。2002年、フィリップモリスアートアワードにて大賞を受賞。同年より東京大学先端科学技術研究センター岩井研究室特任助手を務め、東京大学先端研を拠点に活動を開始する（2006年より廣瀬・谷川研究室特任助教）。2003年に発表した『まばたきの葉』はスパイラルガーデンでの発表後、美術館のみならず多くのパブリックスペースへ展開を続けている。原研哉、深澤直人、三宅一生などがディレクションするデザインイベントや展覧会に多数参加。2009年、羽田空港で開催された

Digital Public Art in HANEDA AIRPORT 「空気の港」の展示アートディレクションを担当し、作品『出発の星座』はグッドデザイン賞を受賞。翌年プロジェクトをまとめた書籍『Digital Public Art in Haneda Airport 空気の港 テクノロジー×空気で感じる新しい世界』を刊行（共著／美術出版社）。2011年、浜松市美術館での個展後、浜松市教育文化奨励賞「浜松ゆかりの芸術家」を受賞。初の作品集『まばたきとはばたき』（青幻舎）を刊行。



浜井弘治（衣装）

山口県下関市生まれ。ファッションデザイナー。94年、事件性にこだわった「工場見学」などのインスタレーション作品を銀座ソニービルにて発表。以降も数々の舞台衣装等を手掛ける。1992年から2003年までパパ・タラフマラの衣装をてがけ、特に代表作となった「パレード」「SHIP IN A VIEW」「城-マクベス」ではファッション業界からも大きな注目を浴び、大駱駝艦、野田秀樹、白石晃、オンケンセンの「リア王」などの衣装をてがけた。

2006年よりデニム、ワークウエアをアイテムに重点を置くために活動の拠点を東京よりデニム産地の山口県に移動し「うるとらはまいデザイン事務所」設立。2007年「匠山泊」ブランドにてサードコレクション・デニムを発表している。

＜本企画の特徴＞

- 東日本大震災（3.11）を契機にスタートした【小池博史 meets 宮沢賢治】の最終章であり、総集編である。
- 古典アーティストと創る現代演劇作品。
- これまでの2作（「注文の多い料理店」「銀河鉄道」）では、人間界と自然界を対極的に表現して来たが、本作は“自然の中に内在する人間界”を描く。
- 洋の東西を問わない舞踊的要素やヴォイス、リズム、歌唱、演劇など多くの表現要素を含みつつ、世界全体を描き出す。
- [小学校]を舞台とした作品のなかで、本来の意味での“教育”や“社会”について再考するための要素をふんだんに取り込む。具体的には「多様性の認め合い」「人間のもつ本来的生命力の認識」「アイデンティティの発見」などで、小学生や中学生へ向けた芸術鑑賞の機会としても期待される。
- 仙台市・多摩市・長野市・茅野市の公立文化施設4館の共同制作として、実施地域での創作プログラムやシンポジウムを開催することで、鑑賞だけにとどまらない、自身の体験を通したインタラクティブな理解の場を創出する。（この公演は（一財）地域創造の平成28年度地域の文化・芸術活動助成事業 連携プログラム事業による助成を受けています）



＜本公演について＞

古典、現在を結ぶために、能楽師、尺八奏者とともに作品創作に当たる。日本の文化を再度、日本国内に於いて再認識すると共に、世界に向かって強く打ち出すべく企図したメンバーであ



る。美術には2009年羽田空港での展示アートディレクション「空気の港」や2010瀬戸内国際芸術祭での『ファスナーの船』などが話題を呼んだ今注目の若手アーティスト鈴木康広が、自身初となる舞美術に挑戦する。2015年度には国内外問わず再演ツアーを実施予定。日本文化の代表である宮沢賢治だが、宮沢型の思考は、今後は世界の主流としていかねばならない思考であろう。それを舞台芸術という身体や空間、時間という総合的



な立体空間によって、ダイレクトに訴えかける作品として世界に提示する。

地域創作プログラム [KENJI]



4館共同制作の一環として、各地域の市民とともに舞台作品を創作するプログラムを実施する。メソッド中心の一般的なワークショップではなく、各地の地域特性を鑑み、参加市民一人一人の個性と表現力、創造性を引き出すための装置としてのプロセスを最重視したプログラムを実施する。

実施スケジュール

2016年 4月29日～5月12日／長野市 アクトスペースチャレンジ2016 KENJI in NAGANO

6月11日～18日（14・15除く）／多摩市 小池博史演劇創作プログラム[－KENJI への旅－]

7月2日～7月12日／仙台市 小池博史ブリッジプロジェクト[KENJI]

9月（予定）・11月／茅野市 子ども創作ワークショップ＋鑑賞プログラム

4館合同シンポジウム（長野市・長野市芸術館にて開催）

地域創作のゆくえ～まちのDNA、創造する Community

まちの歴史と共同体をつなぐ『創造』に寄与するために、地域の劇場・ホールが「まち」のなかで果たす役割とは何なのか？また、そうしたローカルな一つ一つの試みをつなぐこと（連携）にはどのような価値や可能性があるのか？演出家・小池博史さんをゲストに迎え、本プログラムに参画する4館それぞれの試みと、それを架橋するアーティストの役割について考えていきたいと思います。

《実施概要》

日時：2016年5月11日（水）19:45頃より（約1時間30分）＊『KENJI in NAGANO』の終演後
コーディネーター：石川利江（ISHIKAWA 地域文化企画室 代表）

ゲスト：小池博史（演出家・振付家／小池博史ブリッジプロジェクト代表）

参加館：仙台市市民文化事業団／パルテノン多摩／茅野市民館／長野市芸術館

会場：長野市芸術館アクトスペース

＜各館の地域創作プログラム実施概要＞

長野県 長野市芸術館

アクトスペースチャレンジ 2016×小池博史ブリッジプロジェクト

『KENJI in NAGANO』

(長野市芸術館オープニングシリーズ)

本年5月に開館を迎える長野市芸術館では、演劇練習室やアトリエ（作業場）といった創作のための機能をフル活用し、客席可変のフレキシブルな小劇場空間「アクトスペース」にて、公募市民とともに本格的な舞台作品を創作するプログラム「アクトスペースチャレンジ 2016」を毎年実施していきます。

今回、小池博史ブリッジプロジェクトと共同で創作する本プログラムの出演パフォーマーの募集では、37歳の若さでこの世を去った青年・宮沢賢治にちなみ、18歳から35歳までの世代に対象を絞って募集しました。オーディションで選ばれた12名のパフォーマーと舞台を支えるたくさんの市民サポートスタッフたちによって、いよいよ4月29日から5月10日までの約2週間をかけたプロダクションが、長野市芸術館の開館に先駆けてスタートします。

《実施概要》

公演日時：

2016年5月11日（水）18:30 開演

2016年5月12日（木）14:00 開演

※5/11の公演終了後に「4館合同シンポジウム」

あり（約1時間30分）

公演会場：長野市芸術館アクトスペース

入場無料（要入場整理券／各回200名／先着順）※未就学児入場不可

パフォーマー（公募による）：

青木賢治／青柳真優美／岩間健児／金田渚／

越大地／佐藤健一／平下拓実／松本阿子／村松沙理亜／諸川舞／柳沢成人／渡部彩萌（50音順）

スタッフ：

舞台美術・照明・音響＝長野市芸術館技術スタッフ&KENJIサポートスタッフのみなさん

映像＝長峯亘、月原康智（ジョッガ） 衣装＝山口明紀（セムニイ） 舞台監督助手＝大沢夏

海（ネオンホール）制作助手＝増澤珠美（ナノグラフィカ）



主催・企画制作：一般財団法人長野市文化芸術振興財団

お問合せ：長野市芸術館 長野県長野市大字鶴賀緑町1613番地

☎ 026-219-3100

HP <http://www.nagano-arts.or.jp>

＜各館の地域創作プログラム実施概要＞

東京都 多摩市文化振興財団（パルテノン多摩）

パルテノン多摩 PAC プログラム

小池博史 演劇創作プログラム[－KENJI への旅－]

パルテノン多摩では、演劇やパフォーミングアーツ等の事業を行う際、サポートスタッフや出演者として市民が様々なかたちで参加することのできる開かれた事業づくりを展開してきました。とくに、近年開催している野外フェスティバル「多摩1キロフェス（今年より「パルTAMAフェス」に改名）では、演劇公演への市民参加、準備から本番運営までのスタッフ業務のサポートを地域の大学生や一般公募により集まっていただいております。優れた舞台芸術を通して人々が劇場に集まり関わっていく中で、新たな出会いと結びつきが生まれ、地域の活性化につながっていくことを目指しています。

また、小池博史ブリッジプロジェクトが近年取り組んでいる宮沢賢治シリーズは、宮沢賢治の宇宙・人間・自然への哲学を私たちが再認識するいい機会といえます。宮沢賢治生誕120年であるこの機会に、その精神を感じながら、プログラムに参加し、成果発表に触れ、公演を鑑賞し、自身の体と心に向き合っていただく機会になればと願っています。

「演劇創作プログラム」では小池博史氏の書き下ろしたテキスト[KENJI]をベースに、一般から募集したパフォーマー25名が舞台作品を6日間で創作。最終日は実際にパルテノン多摩小ホールの舞台に立ち、発表します。

《実施概要》

演劇創作プログラム実施日時：

2016年6月11日（土）～13日（月）、16日（木）～18日（土）

成果発表公演：2016年6月18日（土）15:00 開演

公演会場：パルテノン多摩小ホール

入場無料（各回300名／先着順）

市民参加募集

- ・パフォーマー（出演者）/経験問わず、高校生以上70歳位まで、25名
- ・舞台スタッフ（照明、映像）年齢・経験問わず、若干名

主催：公益財団法人多摩市文化振興財団

平成28年度文化庁劇場・音楽堂等活性化事業

お問合せ：公益財団法人多摩市文化振興財団

☎ 042-375-1414

HP <http://www.parthenon.or.jp>



小池博史ブリッジプロジェクト「風の又三郎」公演関連企画

小池博史 演劇創作プログラム

－KENJIへの旅－

国内外で活躍する舞台芸術家・小池博史による「風の又三郎」が10月、パルテノン多摩にやります。
その関連企画として宮沢賢治をテーマにした作品制作ワークショップを開催。演劇、ダンスの経験のある方はもちろん、まったく新しい方でも参加いただけます。今も私たちの心に生き続ける作家、宮沢賢治の生誕120年の年に、自然と人間について深く考え、作品をつくっていきましょう。

参加者募集

日程・会場

日	期	日	期	日	期
6.11	土	6.12	日	6.13	月
6.16	木	6.17	金	6.18	土

パルテノン多摩 1階リハール室

6.18
パルテノン多摩 小ホール

【成果発表】成果発表は15:00～16:00一般公募可
※当日中に発表あり

主催：公益財団法人多摩市文化振興財団 企画協力：株式会社サト

プログラム内容

ゆっくりとした動きの中でコミュニケーションを促す「スロームーブメント」という手法を用い、自身の身体から何の気づきも探っていきます。小池博史の宮沢賢治キャラクターを模範とし、その世界観に合わせた動きや動きを参加者から募集してもらい、ひとつの作品をつくっていきます。最終日には、小ホールで発表公演を行います。

＜各館の地域創作プログラム実施概要＞

宮城県 仙台市市民文化事業団

小池博史ブリッジプロジェクト 創作プログラム『KENJI』

宮沢賢治の作品には、現代世界を揺るがす「個人」と「全体」のせめぎ合いや、仏教への共感による死生観、豊かな自然への信仰など、真に今日的なテーマが色濃く内包されています。そして2011年3月11日の「あの日」以来、わが国、そして特に被災地・東北では宮沢賢治の思想に立ち返る動きが加速し、賢治にまつわる数多くの創作・事業・プロジェクトが実施されました。未曾有の自然災害とその二次災害を体験、あるいは目の当たりにした私たちが、これまで以上に死者と近くなり、強い無常観とともに今を生きていることとも無関係では無いはずです。

今回試みられる宮沢賢治の生涯をテーマにした小池氏書き下ろしの共通テキストによって、別個の舞台作品づくりに挑むプロジェクト「KENJI」。仙台ではこれまで『銀河鉄道』での「生と死」、『注文の多い料理店』での「動物と人間」という大きなテーマにより市民参加によるパフォーマー向けに短期間の創作体験ワークショップを実施してきました。今回はパフォーマーだけでなくスタッフも市民公募して、これまでで最も長い10日間という期間で、小池氏のディレクションのもと舞台作品を創作するプログラムとします。

パフォーマー、スタッフともに経験を問わず公募して、鑑賞だけでなく創作体験することで総合舞台芸術に対する理解を深めていただく場とします。また、創作体験を通して宮沢賢治の残した芸術・思想を基軸に私たちの現在と未来を捉え直す、実りある機会としていきたいと考えます。

《実施概要》

期間：2016年7月2日（土）～12日（火）

成果発表公演：7月12日（火）

19：30 開演予定

公演会場：日立システムズホール仙台 シアターホール

市民参加募集

- ・ パフォーマー（出演者）/経験問わず、高校生以上60歳まで、20名
- ・ 舞台スタッフ（映像、音楽、照明、音響
舞台美術・大道具、制作補助）/年齢・経験問わず、15名



2015年実施創作体験ワークショップより

主催：公益財団法人仙台市市民文化事業団、仙台市

平成28年度文化庁劇場・音楽堂等活性化事業

お問い合わせ：公益財団法人仙台市市民文化事業団 事業課事業企画係

☎022-301-7405 FAX：022-727-1874

E-mail：kaze-sendai@bunka.city.sendai.jp

＜各館の地域創作プログラム実施概要＞

長野県 茅野市民館

[KENJI] 子ども創作ワークショップ+鑑賞プログラム

茅野市民館では2012年、主催事業にて小池博史氏を講師に市民創作ワークショップを実践してきました（「1week 体験！プロとつくるパフォーマンス～歌い、踊り、演じてみよう！～」

<http://www.chinoshiminkan.jp/coc/report/2012/0414-0506/index.htm>）。

地域創作の経験を踏まえ、今回の4館連携地域創作プログラムでは〈こどもたち〉を対象にした創作ワークショップと「風の又三郎」プレビュー鑑賞（※茅野市内全小学4年生鑑賞）を実施します。ワークショップでは講師に浜井弘治氏（「風の又三郎」「銀河鉄道」舞台衣装）を迎え、こどもたちが舞台創作を体験します。体験を通じて得た総合的感性による舞台鑑賞を通じ、[KENJI] 3部作の持つ、未来をつくるこどもたちに向けたメッセージを体感する機会となることを目指します。さらに、「風の又三郎」一般公演において、こどもたちの創作を鑑賞できる空間を設け、瑞々しい表現が一般鑑賞者にとって新たな視点を生むような〈劇場体験〉をお届けします。

《実施概要》

■ワークショップ

実施日：2016年9月（予定）

講師：浜井弘治（ファッションデザイナー／株式会社うとらはまいデザイン事務所）

会場：調整中

対象：小学生

※成果物は「風の又三郎」一般公演（11月2日）にて関連展示予定。

■プレビュー鑑賞

実施日：2016年11月1日（火）

会場：茅野市民館 マルチホール

対象：茅野市内全小学4年生



2012年の創作ワークショップより

主催：茅野市民館指定管理者 株式会社地域文化創造

平成28年度文化庁劇場・音楽堂等活性化事業

お問合せ：茅野市民館 長野県茅野市塚原一丁目1番1号

☎ 0266-82-8222 HP <http://www.chinoshiminkan.jp/>